

18th annual Congress of the European College of Sport Science における研究発表

田屋敷幸太*

はじめに

今回、平成25年6月24日～平成25年7月2日の日程で、スペインのバルセロナにて開催された18th annual Congress of the European College of Sport Science（第18回ヨーロッパスポーツ科学学会：以下、ECSS）に参加し、これまで我々が行ってきた研究成果の一部を発表する機会を頂いたので、学会大会の様子および私の発表内容についてここに報告する。

ECSS (European College of Sport Science) について

ECSSは体力・スポーツ科学分野の国際協力を推進するとともに研究者間の交流を目的とした国際組織である。当学会は約2万名以上の会員を擁し、年に1度の学会大会には、ヨーロッパを中心とした学会であるにも関わらず、アメリカ、アジア、オセアニアなど世界中から体力・スポーツ科学領域の研究者が集まり、研究成果の発表および討論が盛んに行われている。今回参加した第18回ヨーロッパスポーツ科学学会においても、75か国から3千名余りの参加があり、学会会場は、スポーツ科学を研究領域とする研究者や学生をはじめ、運動指導および実践者等の参加者で非常に盛況であった。

一般発表の合間には「Honorary session」、
「Invited presentation」など、著名な研究者のレクチャーやシンポジウムなどの講演があり、朝8：30～夕方17：00まで様々な内容の発表が絶え間なく行われていた。いずれの内容も非常に興味深



学会会場入り口の様子



講演会場の様子

く、今後の研究において有益なものであると感じた。今回が初めての学会参加であった私にとっては、世界中の研究者たちの熱意に驚き、自分自身の研究への取り組みを見つめ直すきっかけとなった。

* 鹿屋体育大学大学院体育学研究科

研究発表について

学会大会2日目のMini oral sessionにて「Association between intra-abdominal pressure and muscle activity levels of trunk muscles」というタイトルで発表した。その内容は「体幹筋群の筋活動が腹腔内圧に及ぼす影響」について、腰痛患者への処方やアスレチックパフォーマンス向上の目的で行われている体幹屈曲、体幹伸展、ドローイングおよびブレッシングといったエクササイズを比較検討したものである。今回の発表を通して、自身の研究内容の位置づけや研究データの有用性を再確認することができ、非常に有意義な時間を過ごすことができた。今後、すみやかに本研究の内容を論文として発表したいと思う。

自身の英語力のなさから、学会初日は欧米諸国の人々の英語を聞き取ることが難しかった。しかし、2日目、3日目と過ぎるにつれて、聞き取って理解するということが自然とできるようになった。今後、国際的に活躍する研究者を目指すうえで英語力を向上させ、ECSSも含め世界中の研究者が集う国際学会に積極的に参加し、自分自身を成長させていきたいと思う。

おわりに

今回、初めての学会発表だったために不安を感じ足がすくむくらいの緊張感を抱いていたが、この学会を通して多くのことを学び今後の研究活動にとって非常に有益な経験となったと思う。また、私自身英語力の乏しさに悔しい思いをしたことも事実であり、より一層努力していきたいと考えている。

最後に本学会大会への参加・発表にご理解とご支援いただいたことに、感謝の意を表します。



発表会場の様子